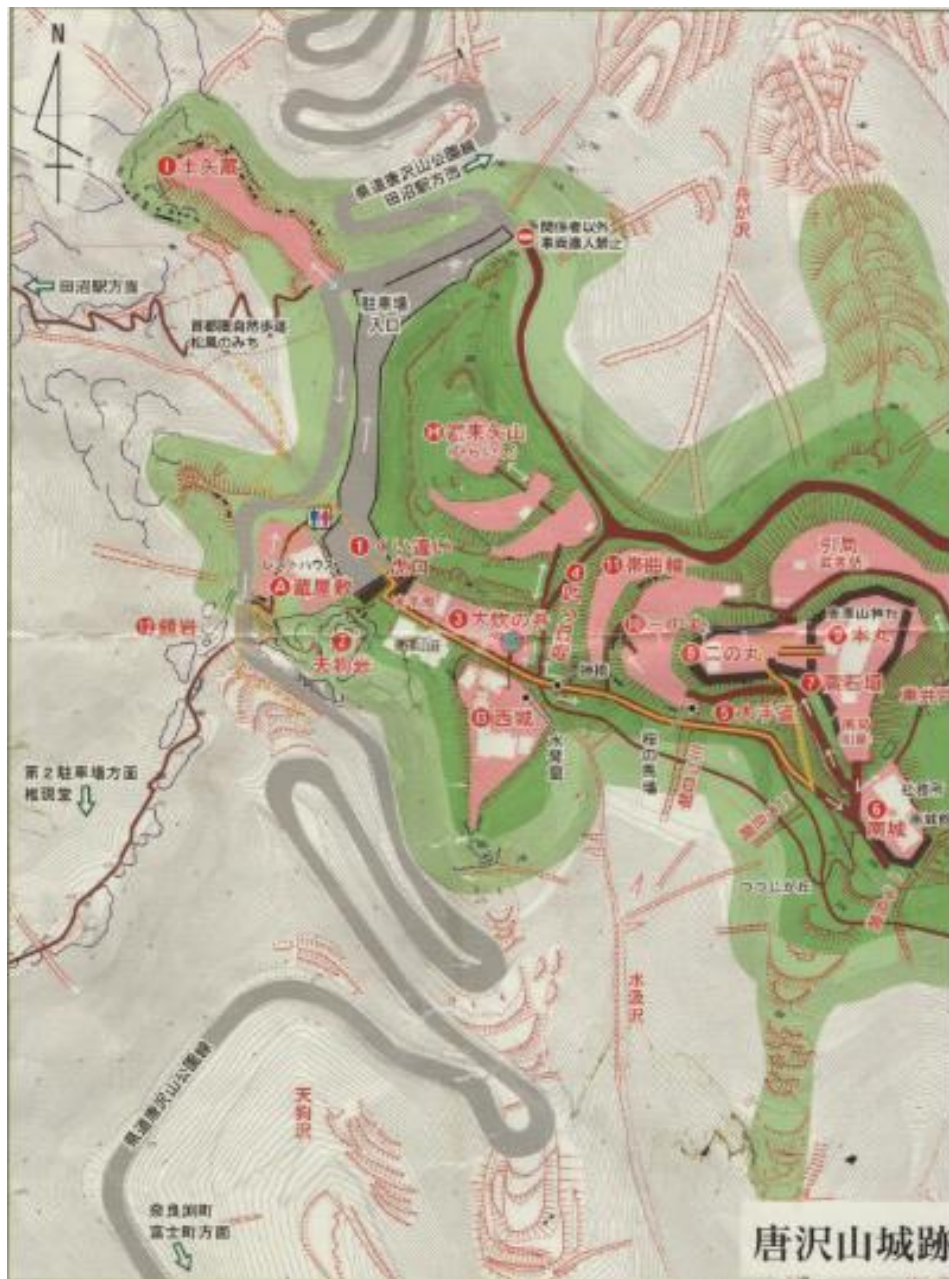


唐沢城跡(佐野市)

築城年代:天慶3年(940年)、築城者:藤原秀郷

前方が唐沢城跡/南側から見たところ





- ① 土頭丸
レストハウス周辺は蔵屋敷と呼ばれています。旧築は南側に向かってなだらかに傾斜していたようです。
- ② 西城
天徳寺丸ともいい、涼やかな青色の水琴窟を楽しめます。南方に堀切等が続きます。
- ③ 長門丸
弓削長門が直巻したとされますが、お花畑ともいいます。南面を除き土塁が残り、南側に堀切が認められます。
- ④ 金の丸
平城ともいい、お宝蔵があったとされます。現在、金の丸ロッジとして利用されていますが、土塁等も残ります。
- ⑤ 杉田丸
北側に一部で開口する土塁が残ります。清沢青年自然の家は平成19年3月で閉館し、現在は整地されています。
- ⑥ 北城
平島屋丸ともいい、北側と南側に低い土塁が認められます。大沢方面からの登山道が西側に接続しています。
- ⑦ 二重の堀切
堀の南方面と北城以南とを分断する大規模な二重の堀切です。北側の堀切は狭場となって長く続きます。
- ⑧ 遠来尖山
北側を除き概ね3段の平坦地が連なり、頂上に遠来尖山堂舎があります。周辺に武具土蔵があったとされます。
- ⑨ 土頭丸
山頂の西側にあり、南側に本丸周辺よりも古い石垣等が認められます。かつて、櫓があったとされます。

縄張図を手に大凡このパンフレットの順路で進んでみよう



左上のレストハウス手前の駐車場付近から出発する



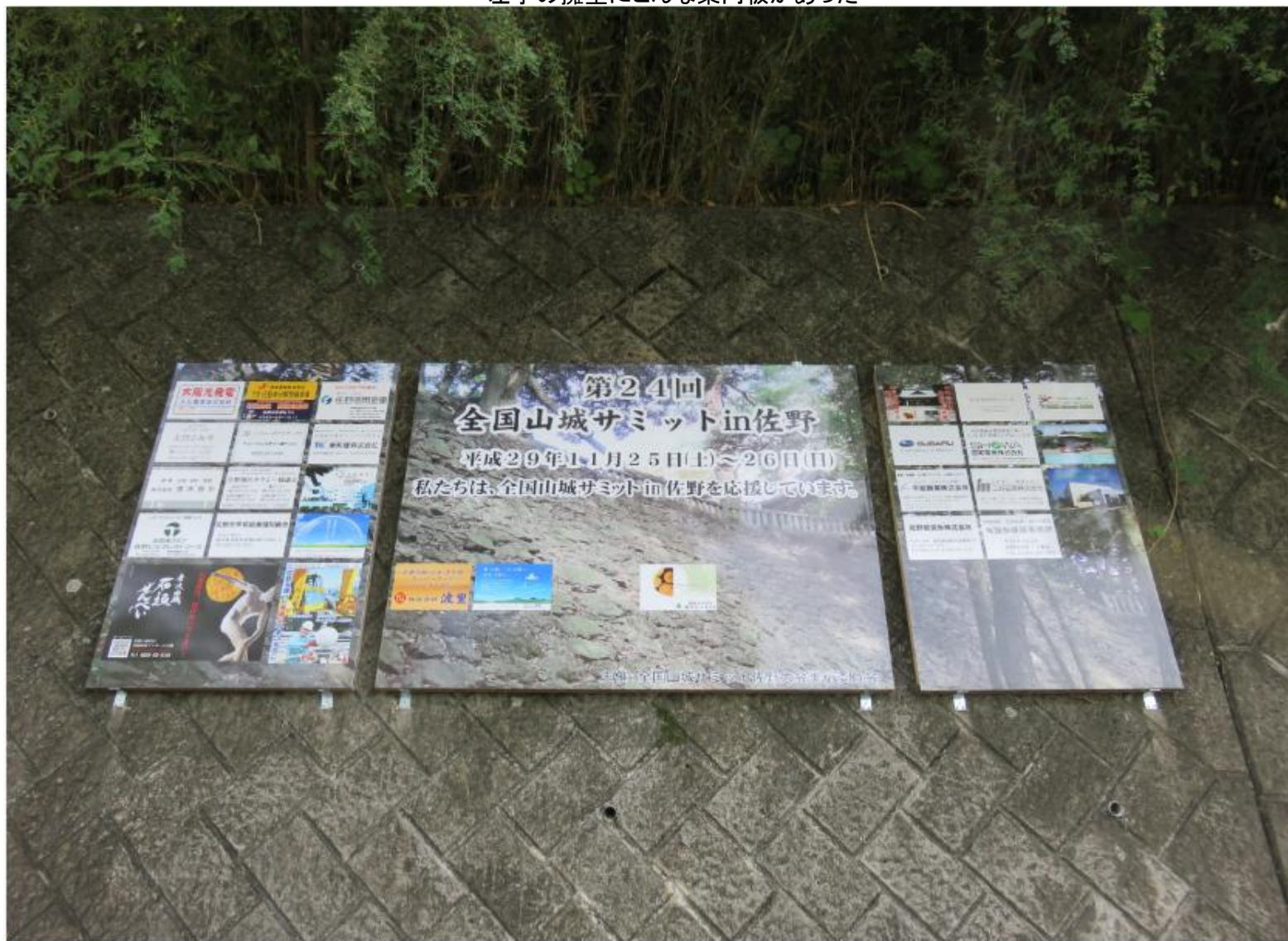
この先が駐車場



前方右手の建物がレストハウス



左手の擁壁にこんな案内板があった



このレストハウス周辺が「蔵屋敷」



そこで右手を見たところ/正面の細い道を下って行った所が大手口となる/後程行ってみよう



「蔵屋敷」から東方向を見たところ/前方に「喰い違い虎口」がある



ここが「喰い違い虎口」



振り返って「蔵屋敷」エリアを見たところ





史蹟「唐沢山城」沿革

唐沢山城は、佐野市の北、高さ二四〇メートルの山全体をい、往時の広さ五五〇町歩と云われ、周囲を急崖にかこまれ、眺望は、関東平野を一望に、遠く北より日光連山、西に群馬連山秩父南アルプス、秀峰富士、東に筑波と、まことに自然の要塞である。

当社御祭神 秀郷公により一千年前の延長年間築城とされ、公はこの城を中心に、天慶の乱を鎮定し大功をたてられ、その功により鎮守府將軍として、関東はもとより奥州方面にまで威勢を張られた。その後七〇〇年間多少の変遷はあつたが、公の子孫佐野家代々の居城として十六世紀中ごろに現在の形を整えたとされている。関東七名城の一つに数えられ、中世山城の典型としての旧態をよく今に残し、代々の変遷の跡も見られ近世初期にまで下る整備の跡もつか、われる。

江戸初期、山城禁止令により、佐野市の城山公園の地に城換となつて、唐沢山城の歴史が終わるが、明治になり唐沢山神社が建てられると全山境内地となり、景立自然公園にも指定され四季おりおりの風景の中に、秀郷公以来の歴史が偲ばれる。

(山内の案内図がレストハウスにありますのでご利用下さい。無料)

一日 一日祭

十五日 避来矢山靈廟月次祭

二十五日 秋季例大祭

二十六日 御墓所祭

さて、「喰い違い虎口」を進んでみよう



折れを伴っている



柵形構造になっている



「喰い違い虎口」から「葺屋敷」方向を見たところ



右手の階段を登ると「天狗岩」がある/左手に「天狗岩」の説明板が立っている





てん く いわ
天 狗 岩

「大険山」とも例えられる岩山で、頂上
からの良好な眺望を活かし、広く周囲を
見張る役割を果たしていたと考えられる。

天 狗

左手を見たところ/こちらに進むと「大炊の井」がある/正面の建物は唐沢山荘



振り返って柵形構造を見たところ/左手が「天狗岩」/正面に説明坂が立っている





くいだち 虎口

敵が直進できないように、鎌の手に折れて
「くいだち」に造られている。さらに内側
は「ます形」となる。

さて、「天狗岩」に行ってみよう/この階段を登って行く



大きな岩の塊が現われてきた



これが「天狗岩」



反対側から見たところ



足元にある展望案内



南方向を見たところ



アップで見たところ/北関東自動車道が見える(右手が高崎方面)/ここは当時の物見台であったのだろう



さて、元に戻って「大炊の井」方向へ進もう/右手の建物は唐沢山荘



少し進むと唐沢山城跡中央部の「地形起伏図」が立っていた



拡大図



その先には唐沢山神社の鳥居が立っている



左手を見ると「大炊の井」がある



大炊の井

築城のさい巖島大明神に
祈請をしその霊夢により
掘ると水がこんこんと湧き
出たとの事である深さ九米
直径八米あり今日まで水が
かれたことがない

唐澤山神社

こな塩梅



石積みが施されている



少し上から見たところ



これは「大炊の井」の傍にある「竜神宮」/説明坂が立っている



八大龍王神縁起

唐澤山御祭神であらせられた藤原秀郷公が、京に架かる勢多大橋を渡る時、橋の中央に息を絶え絶えの大蛇が横たわり、京の人々は恐れ慄き、遠巻きに見送るだけでしたが、公は何事もないうちに大蛇を跨ぎ橋を渡り終えました。それを見ていた従者が此の人こそ真の勇者と公を呼び止めの助けを請いました。大蛇は龍神様の化身でムカデの毒にやられ敵を討つてはしいのですと公を龍宮城へと招きました。夜になると黒い山が動き多くの松明をばし、さらに向かってくるのが見え、よく見ると大々々邪悪な目がいんらんと思ふく輝き、龍宮城へと響いかに来たのは大ムカデの化けものでした。

ムカデは弓矢の名手だったので二本の御矢をとり、一の矢を奪え敵の肩間の中央に的も放り放ちました。だが、矢は力不足で跳ね返りました。急いで二の矢を撃ちました。同じように跳ね返りましたが、公は最後の三本目の矢を、神々御照覧あれと笑しうにツバキを塗り、全く同じ場所を狙い放った。すると眉間より奥深く射抜きムカデはどつと膝まづき息絶えました。これ以降龍神様は公の傍らに仕え数々の瑞象を表し今日に至り唐澤山に鎮座します。

龍神様は家族に行動する怒から家族思いであり、家族愛に溢れ、敬愛と恋人同士の深い愛の成就の神、登竜門、如く入道入社は死より出世を叶えます。

秀郷公の弓矢の名人の誉から狙った的を外さない、水命の恋人の心を射たり、将来の夢と希望を富める来り神様であります。

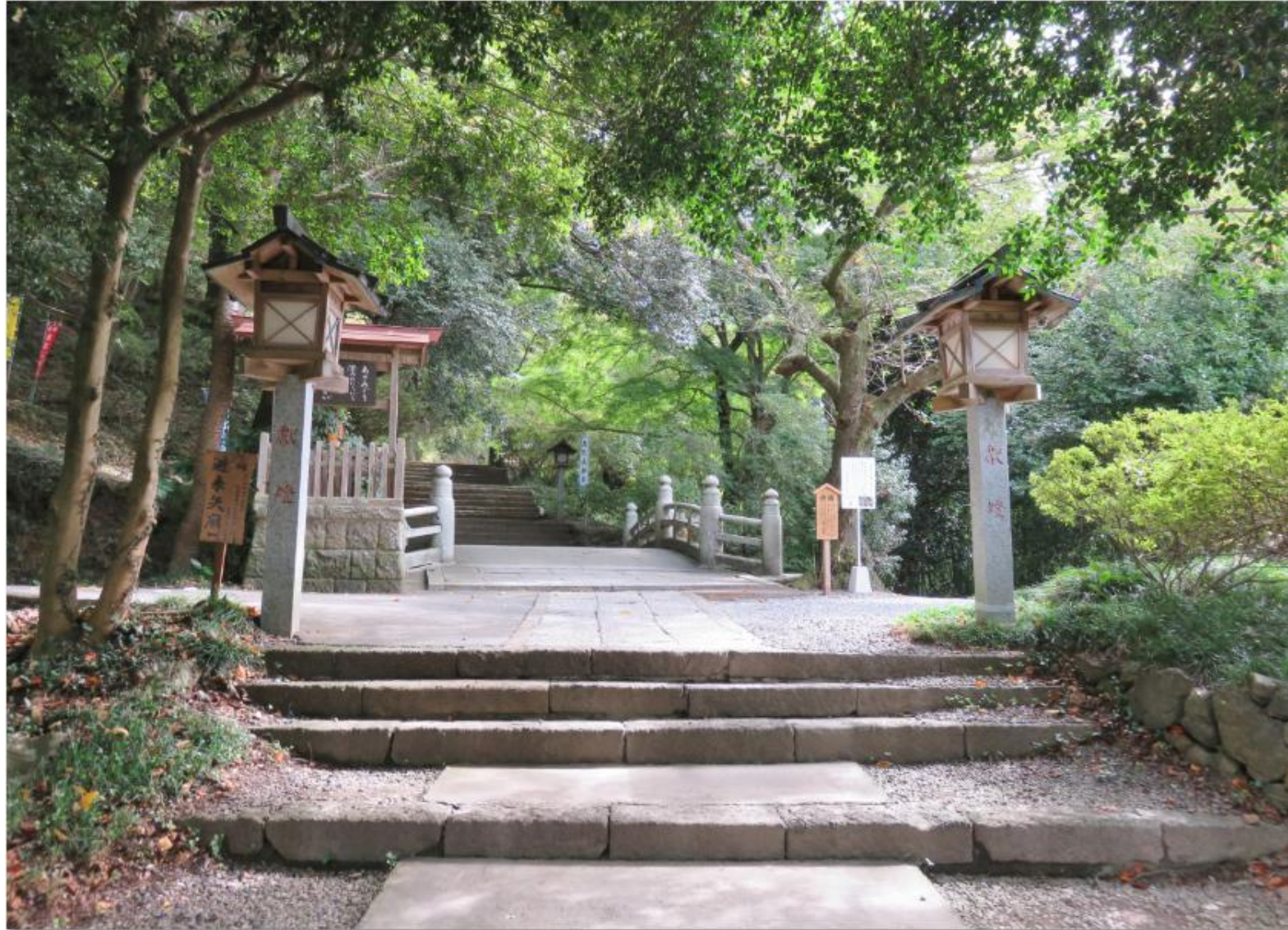
この二神様の力を得る為には二二(お参りし祈り)願夫を奉納すれば叶う事です。



これが「竜神宮」



さて、更に進むと橋が架かっている/この橋を渡って東方向へとまっすぐ進むと本丸へと至る



これは「神橋」と呼ばれる/橋の下は「四つ目堀」という堀切になっている





戦国時代の「神橋」を見てみよう

城の山頂部を東西に大きく分断する四ツ目堀は重要な防衛地点であり、かつては水堀がかけられていたとされています。

いざという時には橋を引き払い、城の中心部への敵の侵入を防いだと考えられます。

左下のQRコードを読み取ると
当時の様子と現在を比べられます。



神橋

かつては水堀であったとされ
いざという時に橋を引き払い逆
行を遮断したと伝えられています
大正十五年皇太子殿下(昭和天皇)
ご成婚記念として地元の西條町
より寄与されました

さて、その右手のエリアは「西城(天徳寺丸)」



これは「西城(天徳寺丸)」にある水琴窟



収蔵庫らしき建物もある



さて、これは「四つ目堀」を見たところ



「神橋」を渡って振り返ったところ/右手に説明坂が立っている





よ つ め ほり
四 つ 目 堀

さい じょう いき おひ ぐる わ い とう おお びん ざん ほり きり
西城域と帯曲輪以東とを大きく分断する堀切。
かつては曳橋で、いざという時には、橋を引
き払って通行を遮断することができた。

橋の上から北方向を見たところ/地形的には登って行く



これは「四つ目堀」の左手に沿った道で「避来矢山」に通じる/後程行ってみよう



さて、堀底に下りて北方向を見たところ



堀底を北方向へ進む/左手は「避来矢山」に通じる道/右上は「帯曲輪」



左手の道が迫ってくる



左手の道に合流してしまった



振り返って南方向を見たところ



こな塩梅



これは橋の上から南方向を見たところ



堀底に下りてみる



その先はこんな感じで下っている



そこで振り返って見たところ



右手を見たところ



さて、「神橋」の先に進む



左手に「和合稲荷神社」がある



これがそれ



さて、そのすぐ先の左手に「帯曲輪」に上る階段がある



正面の階段を上ると「三の丸」の西側の虎口/右手に石積みが見える/左手の平場が「帯曲輪」



これがその「三の丸」の切岸の石積み



さて、こちらが「帯曲輪」/左手には土塁が延びている/その左下が「四つ目堀」



その先に進んだ所/「三の丸」を取り巻くように回り込んでいる/左手の土塁も続いている



そこで振り返って見たところ/右手が土塁、左手が「三の丸」



土塁の下を見ると「四つ目堀」跡の道が見える



更に回り込んで進む



その先はこんな感じで急峻な斜面となっている



右手を見上げると「三の丸」がある



さて、「本丸」への道に戻り、東方向に進む



すると左手にこんな豎堀がある



進んで来たこの道が「桜の馬場」らしい



改めて豎堀を見上げる/この上に別の通路があるようだ



振り返ると豎堀は斜面を下り落ちている/ここが「三つ目堀」のようだ



さて、「桜の馬場」を更に東方向に進もう



すると左手に説明坂がある



唐澤山神社古緒

祭神 藤原秀郷公(田原藤原秀郷)

神階 贈正二位 元別格官幣社

秀郷公は天兒屋敷命三十二世の孫藤原藤原足と祖とし、牧代を経て上野國邑楽郡河原庄藤原氏の館にて生を受け、幼少の頃近江國(今の滋賀県)と山城國(今の京都府)の境にある宇治の田原という所に住んで、馬の器量優れ、人々より田原藤原と慕われた。その頃近江は三上山の大むかひで出沒し人を苦しめていた事を聞き、得意の技術にてこれを打つ、琵琶湖の神、菟土はこの功を賞賛し、公はこの神神祇を受く。時の朝廷よりは從五位下に叙され、下野國押領使に補される(延長五年)四月よつて居城を唐澤山に築く。景行代朱雀天皇の御代天慶二年十二月、平將門下野を始り関東各地を侵略す。公于貞盛と共に下総田、幸島、比、にて血戦し、將門を滅す。時天慶三年二月十四日(世に天慶の乱と云)朝廷其の功を賞し、從四位に叙し、武藏下野兩國守に任じ、鎮守府將軍とす。弘長六百七十(平將門)徳善政といふが、慶長七年(三平)代佐野信吉公の時、天慶をとり、明治十五年八月六日、特旨を以て正二位を再贈せらる。及女後宮、藤原氏等、公の御遺徳を徳ふ人となり、明治十五年九月に本殿及び拜殿を創建し、御鎮座申し、更に更に明治二十二年一月二十九日別格官幣社に列せらる。大正七年十二月十八日特旨を以て贈正二位とされる。

例祭日

- 四月二十五日(春(火祭))
- 十月二十五日(秋(火祭))

そしてその一寸先に左手に登って行く道がある



この道が「大手道」/前方に石垣が見える



その石垣をアップで見たところ/ここへは後程行ってみよう



振り返って「桜の馬場」方向を見たところ



この道の先は「桜の馬場」を越えて斜面を下り落ちて行く/ここが「二つ目堀」のようだ



さて、「桜の馬場」の先の左手の階段を上ると「南城」がある/正面の道は「つつじが丘」へ下って行くようだ



階段を上ると説明坂が立っている/正面の石垣の上が「南城」





から さわ やま じん じゃ
唐 沢 山 神 社

当神社は御祭神秀郷公により平安時代中頃に築城された本丸跡に建てられております。「むかで退治」の伝説や「天慶の乱」の鎮定等から武勇に勝れていたことが知られています。又この乱の鎮定の功により鎮守府将軍に任ぜられました。その後7百年の間多少の変遷はありましたが江戸時代初期の山城禁止令により廃城となりました。明治16年一族旧臣等が公の遺徳を偲び唐沢山神社を建てました。

環境省・栃木県

これが石垣



その先も同じように石垣が続いている/左上が「南城」



反対側から見たところ



さて、石垣上の「南城」に進もう/前方の鳥居がある所は「南局(引局)」



このエリアが「南城」/右手の建物は「南城館」



「南城館」という看板が下がっている/右手に説明板が立っている



なん じょう あと
南 城 跡

なん じょう
南城といわれるこの場所には、かつて蔵屋
敷しきや武者詰むしゃづめがあったとされ、周囲しゅういに石垣いしがきが
めぐり、特に東南とくとうなんの石垣いしがきは見応えみごたがある。

「南城館」の右手/前方にも説明坂が立っている



南城跡について

本丸より南方向にある所から南城と呼ばれる。城はいくつかの曲輪（一定の地域を限り、その周囲と区別する為に設けた囲い）により構成されています。その呼び名には一般的に人名、方向等によって呼ばれることが多い。この南城跡は南北18メートル東西36メートルあり、周囲は石垣をめぐらし東側には堀を設けてあります。

天気の良い時には、ここから東京の高層ビルが眺められます。

環境省・栃木県

南東方向の眺望



アップで見たところ/モヤッていて良く見えない



これが東側の堀を見下ろしたところ



左手を見たところ



右手を見たところ/この先は斜面を下り落ちて行く/これが「一つ目堀」のようだ



「南城」北西側にこんな行き先表示が立っていた/右手に行くと京路戸峠に至るようだ



そちらの方向を見ると前方に覆屋が見える/「車井戸」らしい/後程行ってみよう



さて、正面の階段を登り鳥居がある「南局(引局)」へ行ってみよう/左手を進むと「二の丸」、「三の丸」に至る/後程行ってみよう





この平場が「南局(引局)」/南側から北方向を見たところ/前方の階段の上が「本丸」





唐澤山神社

明治十六年御鎮座
御祭神贈正二位

藤原秀郷公

元別格官幣社

春 四月二十五日

例祭

秋 十月二十五日

東側から西方向を見たところ/前方に説明坂が立っている





みなみ つぼね あと
南 局 跡

こ ち ず に まる しる
古地図によっては「二ノ丸」とも記され
て いる ば しよ ば しよ ちゆう つめ しよ
場所、かつては奥女中の詰所
あ っ た と も い う 。

これは東側の斜面を「本丸」方向に見たところ/前方に石垣が見える



その「本丸」東側の石垣をアップで見たところ



さて、正面階段を登って「本丸」へと進もう/この建物は神門



「唐澤山神社」と記された神額



神門より拝殿を望む



振り返って「南局(引局)」を見下ろしたところ



拝殿



正面奥が本殿



ほん まる あと
本 丸 跡

現在は藤原秀郷公を祀る唐澤山神社の社殿
が所在するこの場所には、かつては奥御殿
が建ち、西側が大手虎口であった。

社殿の右手に土塁が見られる



社殿の右側を南側から北方向に見たところ/正面が土塁



近寄って見たところ



柵の右下を見たところ/先程の石垣が真下に見える



アップで見たところ/前方は「本丸」北東隅に位置するようだ



正面奥が本殿/右手に石垣が見える



こな塩梅



アップで見たところ/右奥が搦手か



さて、「本丸」を東側から西方向に見たところ/正面にも石垣がある



拝殿の左側から本殿を見たところ



こちら側が大手虎口



この虎口から「二の丸」と繋がる



虎口の石垣



左手を見たところ



そこから神門方向を見たところ



「本丸」を西側から東方向に見たところ



さて、左手を「二の丸」、「三の丸」方向へ進んでみよう



右手に高石垣が続く/この辺りは表御殿とも云うようだ



これは「南局(引局)」下の高石垣



これは「本丸」下の高石垣



少し下がっている所は「二の丸」下の高石垣/この辺りが下の「大手道」から見えた石垣



さて、まっすぐ進んで「二の丸」へと進もう/左手に下がって行くと「三の丸」に至る/後程行ってみよう



振り返って見たところ



その右手には「大手道」が見える



さて、ここが「二の丸」/正面は周囲を巡る土塁



左手に建つ神楽殿/右手に説明坂が立っている



二にの丸まる跡あと

奥御殿直番の詰所があったとされ、本丸への大手虎口の守りを固めた曲輪。「追手馬出」と記された古地図も残されている。

「二の丸」を西側から東方向に見たところ/前方の石垣の上は「本丸」



右手の土塁を見たところ



神楽殿の背後の土塁を見たところ



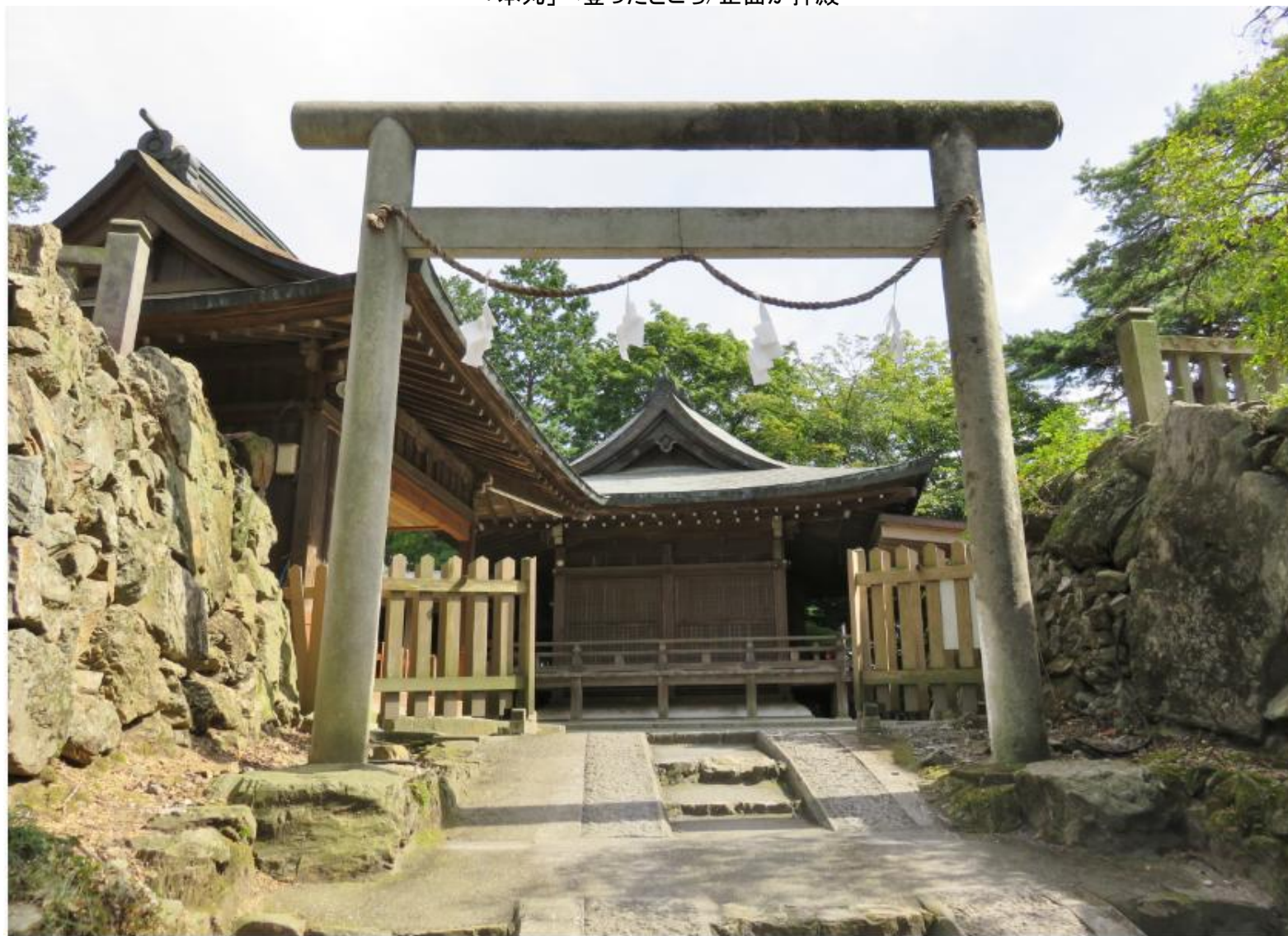
左手の土塁を見たところ



ここが「本丸」への大手虎口



「本丸」へ登ったところ/正面が拝殿



振り返って「二の丸」を見たところ



さて、これは「二の丸」の北東側にある虎口



この向こうは「引局(武者詰)」



こんな塩梅



さて、ここを「三の丸」へと左下に進もう/まっすぐ行くと「二の丸」に至る



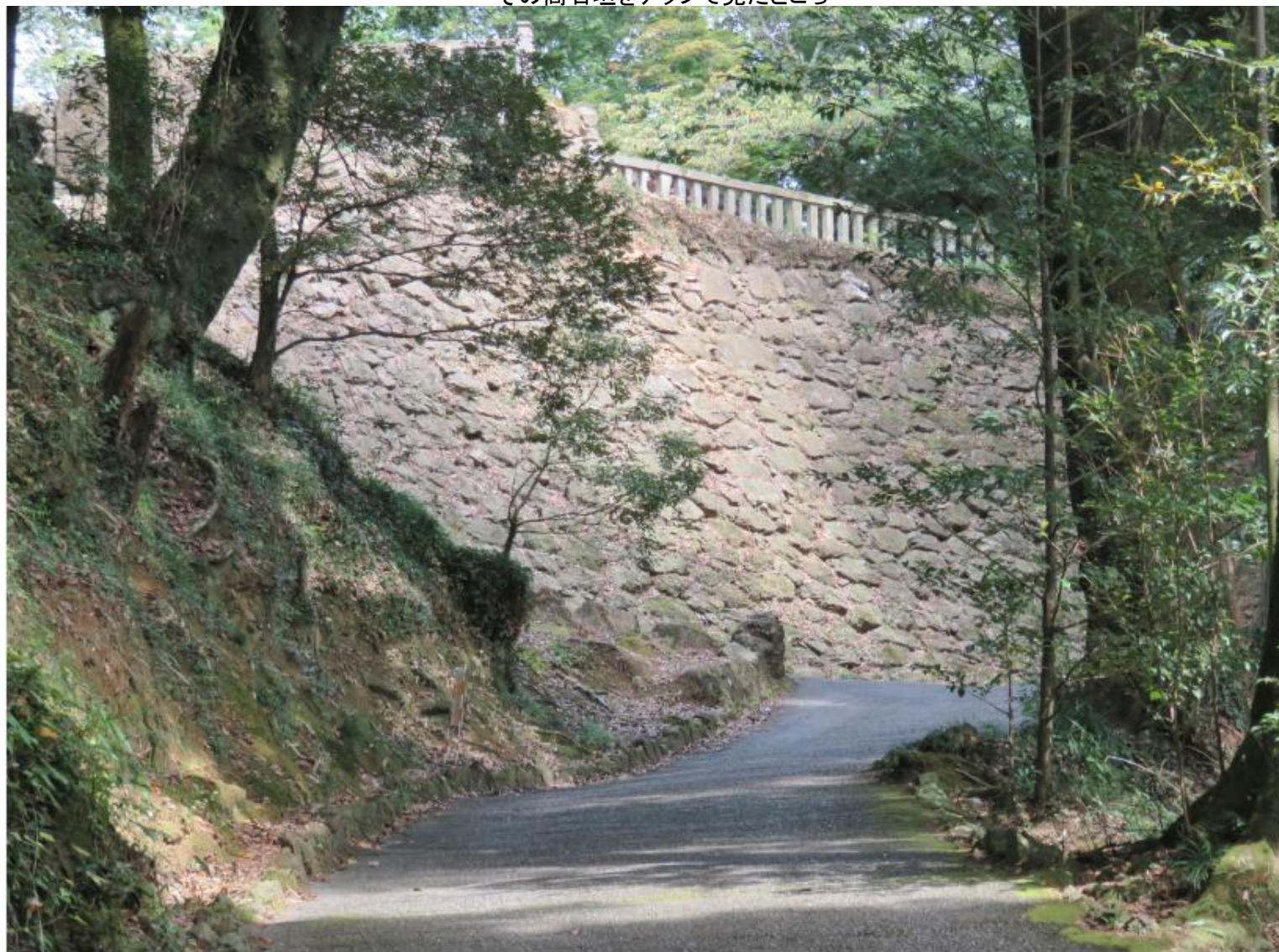
正面が「三の丸」



振り返って見たところ/前方が「本丸」の高石垣



その高石垣をアップで見るところ



「三の丸」を南側から北方向に見たところ/前方に何かある



これは「人形供養塔」とのこと



この人形供養塔は、昭和六十一年より佐野節句品製作組合の事業として9年間実施された「佐野人形まつり」において皆様より供養のご芳志としていただいた浄財にて建立いたしました。

阪神淡路大震災に寄せて一度は、中止といたしました人形供養事業ですが、平成十六年よりこの唐沢山神社の地で佐野人形協会主催の「佐野人形感謝祭」と名称を変更し実施しております。

かねてよりの懸案でありました供養塔建立につきまして、唐沢山神社様のご厚意により、お許しをいただきましたので、佐野在住の陶芸家和田真紀氏に制作を依頼、ここに除幕式を迎えました。

平成二十年九月二十七日
佐野人形協会

北東方向へ回り込むと階段があり、「二の丸」の北東側にある虎口へ至る



「三の丸」から東方向に「二の丸」を見たところ



その右手を見たところ



これは「帯曲輪」の所から上って来る西側の虎口/左手に説明坂が立っている



三さんの丸まる跡あと

本城ほんじょうでは大きな曲輪まがわで、かつては賓客ひんきゃくの応接間おうせつかんがあったとされる。周囲しゅういには高く急な切岸きがしが巡り、部分的に石垣いしがきも認められる。

振り返って見たところ



さて、これは「二の丸」の北東側にある虎口/向こう側が「二の丸」



左手を見たところ/この上が「本丸」



右手を見たところ/この上が「二の丸」



更に先の石垣を見たところ



これはそこから「三の丸」の北東側を見たところ



ここは「二の丸」の北東側の虎口の北側にある「引局(武者詰)」/西側から東方向を見たところ/右手が「本丸」



左側には土塁が延びている



その先にも土塁が続いている



土塁の上に登って見たところ



土塁には所々このような切れ目がある



土塁は更に東方向に続いている



振り返って土塁を見たところ



「引局(武者詰)」を東側から西方向に見たところ/左手が「本丸」



読み込み中...

左手の「本丸」を見上げると上の方に石垣が見える



アップで見たところ



「引局(武者詰)」を更に東方向に進もう/この向こう側が「長門丸」



少し進んで振り返って見たところ/前方の城壘の上が唐沢山神社のあった「本丸」/左手が搦手であろうか





これが「長門丸」



西側から東方向に見たところ



東側から西方向に見たところ/前方の城壘の上が「本丸」



右手を見るとここにも土塁がある



さて、更に東方向に進もう/前方は「金の丸」/左手に説明坂が立っている



「長門丸」は「お花畑」とも呼ばれるようだ

← お花畑 金の丸 →

東・北・西には土塁をめぐらしてあり、東側には堀、西側には井戸に通ずる堀底道と思われるものがあります。城に於て使用される薬草等を作った事からお花畑と呼ばれています。

宝蔵のあった所から金の丸と呼ばれています。東・西南には堀、東側には土塁が現在も残っています。東側堀は、昭和38年青年の家建設の際埋められました。

環境省・栃木県

この上が「金の丸」/「平城」とも呼ばれるらしい/前方の建物は金の丸ロッジ



左手を見たところ/道路になっているが当時の堀切跡



右手を見たところ/こちらは豎堀状となって斜面を下っている



さて、ここが「金の丸」/西側から東方向に見たところ



反対に東側から西方向に見たところ



そこで北方向を見ると土塁がある



その土塁を北側から南方向に見たところ/左手に切れ目がある



これは「金の丸」の北東側にある虎口/この先が「杉曲輪」



前方が「杉曲輪」/ここには以前「唐沢青年自然の家」があったらしく、かなり改変されている/西側から東方向を見たところ



これは「金の丸」と「杉曲輪」との間にあった堀切が南方向に豎堀状に下って行く所を見たところ



「杉曲輪」を西側から東方向に見たところ/正面前方に虎口のような所がある



「杉曲輪」を東側から西方向に見たところ



これが「杉曲輪」の南東側にある虎口



前方はこのように堀切があり、土橋を渡って向こうの平場(「北城」)へ行けるようだ



その堀切を土橋越えに右手から左手方向に見たところ/左手が「杉曲輪」、右手が「北城」



反対に左手から右手方向に見たところ



その先はこのように縦堀状になって下っている



さて、土橋を渡って「北城」へと進もう



ここが「北城」/「平鳥屋丸」とも呼ばれるらしい/南西側から北東方向に見たところ



振り返って先程の堀切を見たところ/向こうが「杉曲輪」



「北城」を南側から北方向に見たところ/右手前方に虎口のような所が見える



ここがその虎口



先に進んでみる



階段を下りると道が二手に分かっている/左手に行くと京路戸峠方面、右手を行くと鳩の峰方面に行けるようだ



こちらが右手の鳩の峰方面に行く道/この先にはキャンプ場があって左手の建物はその洗い場だったようだ/鳩の峰のエリアにも堀切が見られるらしい



こちらは左手の京路戸峠方面に行く道



振り返って「北城」方向を見たところ



そこで左手を見ると豎堀状の所が二箇所ある



右手の豎堀状の所を見たところ



その先はこんな感じで斜面を下り落ちて行く



左手の豎堀状の所を見たところ



その先はやはり斜面を下り落ちて行く/これらが鳩の峰方面と「北城」以南とを分断する大規模な「二重の堀切」であろうか



振り返って反対側を見るとやはりそれらしき縦堀状の所が二箇所ある



右手の豎堀状の所を見たところ



左手の豎堀状の所を見たところ



さて、「長門丸」の東側まで戻り、左手を見ると枝道がある



その枝道を進むと「南城」から見えた「車井戸」があった/右上が「本丸」

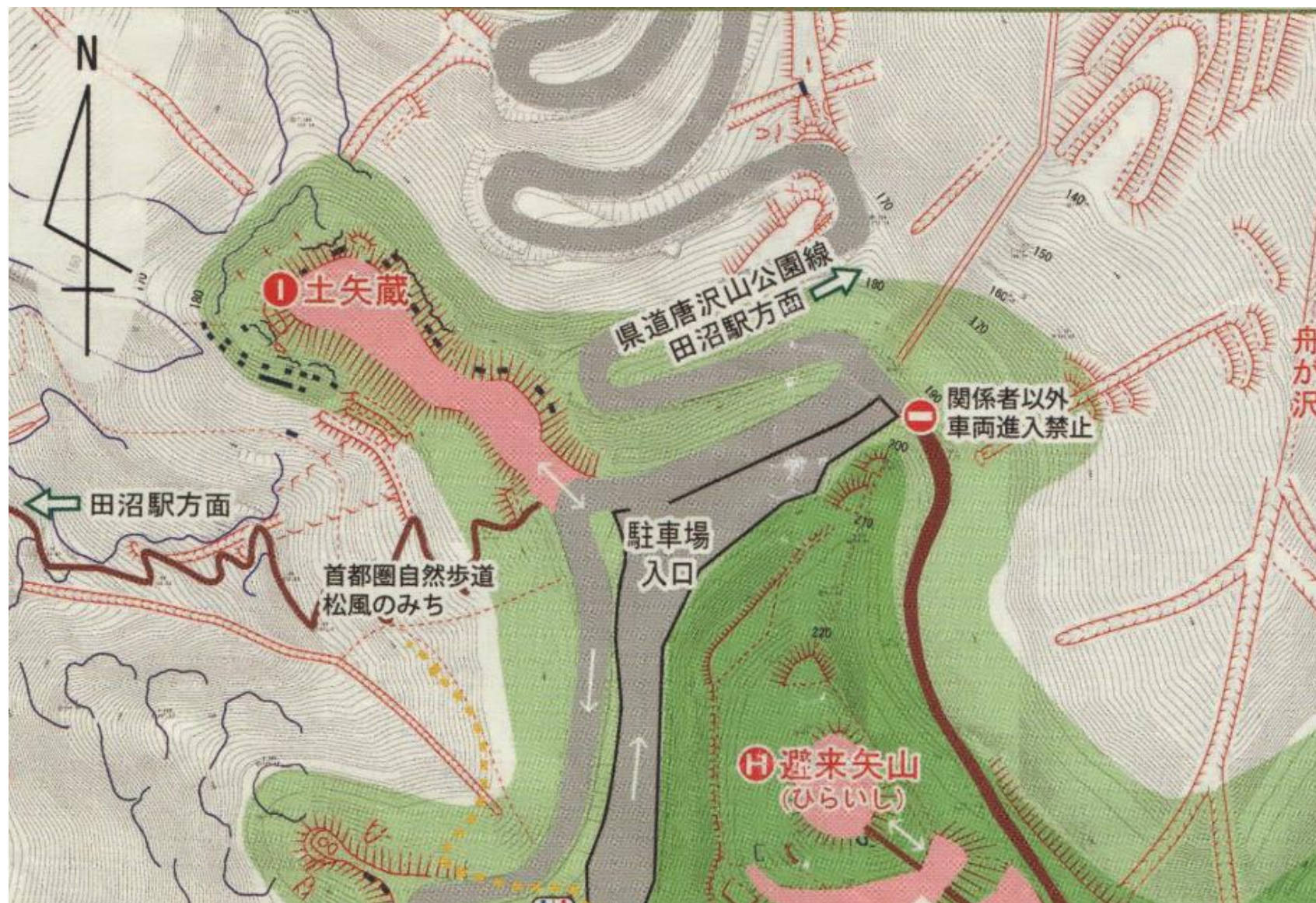


くるま い 戸
車 井 戸

深さ25m余ともいわれ、本丸下に位置していることから、城内の重要な水源であった。別名「がんがん井戸」ともいう。

反対側から見たところ





さて、「避来矢山」に行ってみよう/右手の道路の更に右手が「四つ目堀」



前方が「避来矢山」/3段の平坦地が連なり、頂上に避来矢山霊廟がある/ここが1段目(組屋敷と呼ばれる曲輪)



振り返ると「帯曲輪」が見える



今は道路となってしまった「四つ目堀」を見下ろしたところ



さて、階段を登ろう



ここが2段目



3段目に登ろう



正面が避来矢山霊廟/左手に説明坂が立っている





遊来矢山霊廟

唐澤山神社の創建以来、
功績のあつた方々をお祀
りしています

秀郷公が百足を退治した
時に 龍神様より贈られ
た鎧（遊来矢の鎧）の銘
に由来している

右手に立つ標柱/根古谷神社跡らしい



登って来た階段を見下ろしたところ



さて、最初の駐車場入口の所へ戻る



これはそこで振り返って見たところでここを行った所が「土矢倉」のようだ



この獣道を進んでみよう



少し開けている



その先に進もう



また獣道となっている/この先に櫓があったという/周囲には石垣があるというが・・・



さて、今度は「蔵屋敷」のエリアにあるレストハウス右手の正面の道を大手口方面へと進んでみよう



これは少し進んだ所にある足尾山神社





尻と腰の神様

足尾山神社

御祭神

猿田毘古神

於母陀流神

因宗主命

これが足尾山神社



更に進んだ所が木戸のあった大手口/正面に大きな岩がある/道路の右手は先程の駐車場に至る/左手は富士町方面へと下る



その大きな岩を見たところ/説明板が立っている





こちらにも説明板があった



鏡岩

上杉謙信の唐平城

せめたところ、西日が反射して、
せめることの困難であつたといふ
その時の兵火にあい岩面が
焼かれて相当けずられてしまつた
けれども今でも一部残っている

佐野 唐

これは「鏡岩」



さて、これは道路を富士町方面へ下りてきた所にある唐沢山神社の鳥居/この右手にも鳥居があった



これがそれで露垂根神社とある



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/004tochigi/012karasawa/karasawa.html>

<http://yogoazusa.my.coocan.jp/karasawayama.htm>

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Tochigi/Karasawayama/index.htm>

http://www.city.sano.lg.jp/profile/karasawa/08/pamphlet_soto.jpg

http://www.city.sano.lg.jp/profile/karasawa/08/pamphlet_uchi.jpg

<http://www.city.sano.lg.jp/profile/karasawa/02/index.html>

<http://www.on-air-mobility.org/2697/>

https://blogs.yahoo.co.jp/th0828jp/30099408.html?_vsp=5ZSQ5rKi5bGx5Z%2BO6Leh

